

2021 年度 日本財団助成事業
「国境を越えて移動する子どもと家族のための相談」
『外国にルーツのある家族と子どもへの相談支援オンラインセミナー』
実施報告書

2021 年 3 月

社会福祉法人 日本国際社会事業団

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

日本財団の助成を受け、2021年9月から2022年1月まで、計4回のオンラインセミナーと1回のフォローアップセッションを開催した。

外国につながる家族に関わる相談は、来日の背景や経緯の複雑さなどから、その評価（アセスメント）や支援が難しいとされる。本セミナーは、こうした相談を受けた関係者が、苦手意識を持つことなく、家族の置かれた状況を適切に理解し、的確な情報や支援を提供できるようになることを目的としている。今年度は、昨年度のアンケート結果に基づき、講義内容を「基礎編」と「特別編」に分け、それぞれの関心や関わりに合わせて、より幅広い層が参加できるように工夫した。各回、外部講師による講義とISSJでの支援事例紹介を組み合わせることで、外国につながる家族の抱える課題や支援の実態を参加者が具体的にイメージしながら学べる機会を提供した。（理論と実践を合わせて学ぶ機会を提供した）

〈開催概要〉

	日程	タイトル	講師	申込人数	当日参加数	アンケート回答数
第1回	2021年 9月25日 (土)	外国にルーツのある家族と子どもへの相談支援の基礎 ～在留資格や文化的背景などの留意点について～	東洋大学ライフデザイン学部教授 南野奈津子氏	126名	86名	72件
第2回	2021年 10月30日 (土)	外国にルーツのある子どもの在留資格や国籍に関する相談支援 ～施設に入所している無国籍児童の国籍取得手続きと関係者間の連携～	いずみ橋法律事務所弁護士 小田川彩音氏	124名	64名	61件
第3回	2021年 11月27日 (土)	外国にルーツのある子どもの発達に関する相談支援 ～多文化・多言語環境の子どもの発達について～	臨床心理士／公認心理師 東谷知佐子氏	140名	67名	51件
第4回	2022年 1月22日 (土)	フィリピン人児童の出生登録手続きについて ～出生登録や国籍取得支援におけるフィリピン大使館との連携～	フィリピン大使館領事部 公使・総領事 セルナ チュア シャーメイン氏	81名	45名	27件
会場	各回	オンライン(Zoom ウェビナー)				
参加費	各回	1,000円				

《各回の振り返り》 ※アンケート結果詳細については6ページ以降を参照

●第1回（基礎編）

講師には、東洋大学の南野奈津子氏をお招きし、外国につながるのある家族と子どもを支援する上での基礎となる、在留資格や文化的背景を統計や調査結果などを用いながらお話しいただいた。その後、ISSJスタッフから、過去にISSJが関わった家族の事例を紹介し、外国につながる家族を支援する際に切り離す事のできない在留資格に起因する制約、コミュニティや海外家族との関係性、本国法との兼ね合いなど、様々な難しさをどのように打開していったのかについて振り返った。

第1回目のアンケートからは、相談内容が多様化・複合化する中で、相談者と十分なコミュニケーションを取り、必要な情報や資源に繋いでいくことに苦慮している現場の窮状が読み取れる。相談者の国籍（出身地域）は、フィリピン、ブラジル、中国、ベトナムの4か国で回答件数の2/3を占める一方で、19の国と地域が挙げられており、日本各地で多様な背景を持つ外国籍の方々が相談を寄せている現状が明らかとなった。それに伴い、各地ですべての言語に対応することは難しく、言語面での困難さを感じている参加者が昨年度に引き続き多く見られた。通訳や翻訳については、様々なオンラインツールも開発され、導入が進んでいるにも関わらず、通訳・翻訳支援を求める声が多く寄せられているのは、機械だけでは課題解決には至らないという対人支援の特性を端的に示している。それは、外国につながる子どもや家族の支援に際しては、当事者とのコミュニケーションスキルや当事者の文化的背景や生活状況を理解する力が必要だと感じる参加者が多いこととも関連していると思われる。

最新の情報や知識、手続きの提供は引き続き求められているものの、外国につながる子どもや家族との関わり方や関係の築き方といった、より根底にあるニーズに対応していくことの必要性が伺える結果となった。

●第2回（基礎編）

講師には、いずみ橋法律事務所 弁護士の小田川綾音氏をお招きし、外国にルーツのある子どもの在留資格や国籍取得について、実際の手続き手順などを法律的な側面からお話しいただくと共に、関係者と専門家の連携の重要性を示していただいた。ISSJからは、支援事例を紹介し、相談を受け取り実際に支援していく際の留意点について共有した。

第2回目のアンケートでは、回答者の約半数が、国籍取得に関する相談支援に関わったことがあると回答しており、各地で無国籍状態にある子どもへの認知が高まってきていることを感じさせられた。すでに関わったことのある参加者からは、国籍や在留資格、本国法や制度に関する知識を得ることが難しいという声が多く寄せられており、国籍取得に際しては、専門の相談窓口や弁護士といった専門家の関りが不可欠であることを示している。

国籍取得手続きに際しては費用が発生するが、社会的擁護下にある無国籍状態の子どもも多く、その費用負担についても課題となっている。ISSJに寄せられた相談の中にも、「費用負担できる人（部署）がない」として、国籍取得手続きが遅れていた事例もあった。アンケートからは、一概には言えないものの、未成年である場合等には公費（国や自治体）負担とできる仕組みがあることが望ましいとの結果が読み取れる。

国籍取得に関しては、手続きや手続きに付随する様々な場面での支援は少なく、費用面でも制度的な支援などはなされていないのが現状である。まずは、このようなセミナーや事例の積み重ねによって、無国籍状態にあることの課題が広く認識されるようになり、それに伴い、支援体制も構築されていくことが望まれる。

●第3回（特別編）

講師には、臨床心理士・公認心理師の東谷知佐子氏をお招きし、多言語・多文化環境にある子どもの発達についてお話しいただいた。外国にルーツのある子どもたちの発達の課題は、現

在、教育現場で大きな困難に直面している。言語の問題なのか、発達課題があるのか、その見極めは難しく、学校の先生や学習支援で関わる支援者が試行錯誤を繰り返しているのが現状である。そのような現状を踏まえ、ISSJと東谷先生の両者が関わる事例を紹介しながら、支援者が子どもやその家族とどのような関わりを持ち、働きかけることができるのか考えた。

申し込み時からの関心の高さや事前の質問からみえてくる現場の困り感の大きさを受けて、東谷先生のご提案により、少人数による事例検討を中心としたフォローアップセッションも実施した。

第3回目のアンケートからは、幅広い年齢層の外国にルーツのある子どもが発達に関する課題を抱えており、そのような子どもたちに関わる支援者が孤軍奮闘せざるを得ない状況が浮き彫りとなった。外国にルーツのある子どもの発達に関する専門家がおらず、見極めが難しいために適切な支援に繋ぐことができないという困難さは当然のことながら、当事者である子どもではなく、その家族（保護者）とのコミュニケーションや認識の違いに苦慮しているという回答が多く寄せられた。子どもだけに关わるのではなく、保護者や家族を支えていかなければ解決しないという、子どもをめぐる支援の特徴でもあり難しさが反映されていると考えられる。さらに、外国ルーツである場合、保護者が日本語を介さない、子育て文化の違いなど、より一層、保護者との関係構築に困難を感じざるを得ない現状が読み取れる。

支援者の孤立や疲弊が見られる中で、このようなセミナーを通して横との繋がりを持ち、事例を共有し合える場も求められている。

●第4回（特別編）

講師には、フィリピン大使館の公使・総領事セルナ チュア シャーメイン氏をお招きし、日本国内で生まれたフィリピン人の子どもの出生登録について、具体的な手続き方法を交えながらお話しいただいた。ISSJに寄せられる無国籍状態の子どもの国籍取得に関する相談にはフィリピンルーツのケースが多く、かねてより大使館と連携を取りながら国籍取得を支援してきた経緯より、今回のセミナーが実現した。ISSJからは、そもそも「国籍をとれているかどうか」を確認する方法をはじめ、何をどのような手順で進めていく必要があるのか等、実践での経験から見えてくることを共有した。

第4回目は、フィリピンという特定の国、かつ、国籍取得支援という特定のテーマとし、想定される対象者も限定的なものであったが、その分、より具体的かつ実践的な内容を提供することができ、参加者の満足度も高かった。アンケート回答者の2/3がフィリピンルーツの子どもの支援に関わったことがあり、その相談内容は多岐にわたっている。ここでも、制度に関する情報の不足と保護者とのコミュニケーションの難しさが課題として挙げられた。

今回、フィリピンという国に限定したセミナーは初の試みであったが、他国に関するセミナーもあればよいと思うという感想が寄せられたことは、今後につながる収穫であった。包括的な視点はもちろん必要であるが、出身国や地域についてそれぞれの個別具体を知ることによって、彼らと関わる時の心づもりができるという安心感にもつながるのだと考えられる。国際交流にとどまらない形で、各国の情報や生活習慣などを知れる場があるということは、各地で外国にルーツのある子どもや家族を支援する人たちの一助になるかもしれない。

《成果》

1. 参加者の関心領域／困り感の把握

全4回のセミナーでは、外国にルーツのある家族と子どもが抱える課題について、学術的な視点と実践的な取り組みを組み合わせ、各テーマについて多角的に捉えられるように構成した。事例紹介や検討をしてほしいというコメントが多く寄せられ、すでに外国にルーツのある家族や子どもと関わりのある参加者にとって、それぞれの実践において確固たる指針がない中で模索し、相談し学び合える場を求めていることが明らかとなった。支援のすそ野を広げていくこ

と合わせて、各地域ですでに関わっている支援者が孤立し疲弊しないような体制の構築が求められている。

また、今後取り上げてほしいテーマについても、概要的なものから極めて個別具体的なものまで幅広く寄せられ、それほど、外国にルーツのある家族の課題が多様化している現状が浮き彫りとなった。

2. 広報による新たな参加者層の開拓

2020年度のセミナーは、児童相談所や保健センター等、外国につながる家族や子どもと否応なく関わる専門職を主なターゲットとしたが、今年度はもう少し対象を広くとらえ、全国の国際交流協会や外国人相談窓口などにもチラシおよびメールでの広報を行った。国際交流協会からの申し込みは想定していた以上に寄せられ、「外国人支援」への関心の高さがうかがえた。支援のすそ野を広げていくためにも、幅広い層へアプローチできたことは大きな成果であると考ええる。

また、オンライン開催ということで、地理的に広範囲に参加を募ることができた。地域によって状況と社会資源はさまざまであると思われるが、移動の障壁がないことは遠隔地の支援者にとっては利点が大きかった。

《課題》

1. 対象者の拡散、専門性と一般性とのバランス

2年間、計8回（＋フォローアップセッション）の実施を通し、参加者のニーズや関心領域を把握することができたが、同時に、専門性やベースとなる知識にも大きなばらつきがあることも当然ながら明らかとなった。セミナーの対象を幅広くとると、参加者層は広げることができるが、その焦点はぼやけてしまい、誰にとっても中途半端なものになってしまう危険性がある。一方で、外国にルーツのある子どもの支援は、児童相談所や乳児院、児童養護施設、行政の窓口担当者、弁護士や保健師などの多職種がチームで、多角的かつ長期的な視野をもって取り組む必要があることは、参加者間でも認識され始めている。従って、多職種を対象に多角的な視点を盛り込んだセミナー、あるいは、セミナーにとどまらず顔の見える関係を構築できる場を作っていくことも必要とされている。

対象者をどのように定め、専門性と一般性のバランスをいかにとっていくのかが、セミナーを組み立てていく上での重要な視点となる。日本社会全体として何が求められているのか、それに対してISSJが提供できるものが何なのかを見極め、引き続きセミナーを開催していきたいと考えている。

2. 顔の見える関係の構築

オンライン開催は、地域を問わずに参加できるため、近隣に資源や前例の少ない地域からも参加できるというプラスの側面がある。今年度も、「地方で資源がなくて困っている」という参加者も複数見られた。一方、参加者数の増加を見込んだこと、および、昨年度の当日参加状況を踏まえ、ウェビナーでの開催としたことで、横のつながりを創出するには至らなかった。昨年度のアンケートでも、せつかくの機会なので顔の見える関係、つながりを作れる場があると良いという感想が複数寄せられていたが、オンライン実施でどのようにそれが可能なのか、今後も模索していく必要がある。

対して、第3回で実施したフォロワーアップセッションにおいては、少人数でのZoomミーティングとし、参加者同士が経験を共有できる場としたところ、今後も継続したいとのコメントが寄せられた。大規模な講義と小規模のミーティングを組み合わせていくことも今後検討していきたい。

《セミナーを終えて》

4回のセミナーの構成は、講義と実践事例の組み合わせを枠組みとし、ISSJで相談が増えている、あるいはソーシャルワーク実践で難しさを感じることの多いテーマを選んだ。第1回のテーマを除いては容易に答えが見つからない課題が多く、ケース毎に状況も異なる。セミナーでは、対応に苦慮するソーシャルワーカーの悩みも共有した。

外国につながる子どもや母子、家族の支援では、移住に伴う特有の課題と日本人と同様の生活課題が組み合わせられ、その組み合わせが文化や移動の背景などによって極めて多様になるため、いつでも同じ方法で解決に至るわけではない。むしろ毎回試行錯誤となりやすいが、そのような場合でも実践を積み重ね、事例を共有することは、支援の向上につながると思われる。当事者の状況を理解するには、基本的な理論や法制度の枠組みについて知ること、もちろん重要である。理論や知識と経験（認識）を組み合わせることが、スキルの向上につながる。

今回のセミナーの開催は、全体として、参加者のニーズにある程度答えることができたという印象がある。今後も、地域で暮らす外国ルーツの住民は増えていくだろう。支援者は多様な当事者に対応できるようにスキルをあげる、あるいは連携する先の確保が必要となる。福祉教育の中で移住者に特化したカリキュラムがない以上、このような学びの機会が必要であると考えられる。

《アンケート結果》

●第1回（回答数：72件）

テーマ：外国にルーツのある家族と子どもへの相談支援の基礎
～在留資格や文化的背景などの留意点について～

1. 外国籍の方やその支援者等から相談を受けることがありますか？（回答数：72件）

はい	60
いいえ	12

2. （ある場合）どんな相談がありますか？※複数回答可（回答数：60件）

経済的困窮・住居確保	23
在留資格	19
子どもの発達・教育	40
妊娠相談・DV・離婚など母子女性相談	21
子どもの養育・児童虐待・社会的養護	34
医療・メンタルヘルス	15
就労	17
帰化・国籍・家族呼び寄せ	19
日本語を学べる場所や日本語検定について	1

その他の回答（4件）：

- コロナ対応、日常生活のよろず相談
- ワクチン接種、日本語学習（支援）、その他多岐にわたる
- 僻地のため公共交通機関が実質利用できず、移動の自由がない

3. 外国につながる家族や子どもの相談は、どの国・地域の人からが多いですか？

※自由記述（回答数：48件）

フィリピン	28	アフリカ諸国	1
ブラジル	14	中南米	1
中国	14	スペイン	1
ベトナム	8	アフガニスタン	1
ペルー	5	メキシコ	1
韓国	3	パキスタン	1
タイ	3	ボリビア	1
インド	2	シリア	1
南米	2		
ネパール	2		
アジア諸国	2		

4. 相談支援を行う際、どのような支援・資源があるとよいと思いますか？

※複数回答可（回答数：72件）

通訳・翻訳支援	60
在留資格・入管法・国籍等の法的アドバイス	47
当事者コミュニティなどインフォーマルリソースの紹介・情報提供	46
当事者やその家族の生活状況に関する家庭調査・助言、アセスメントへのアドバイス	32
支援者向けの研修	47
市役所、コミュニティ等との連携	1
外国人に対応できる専門職の紹介	1
同行支援ができる体制や同行支援ができる団体との連携	1

5. 外国につながる家族や子どもの相談支援では、どのようなスキルが必要だと考えますか？

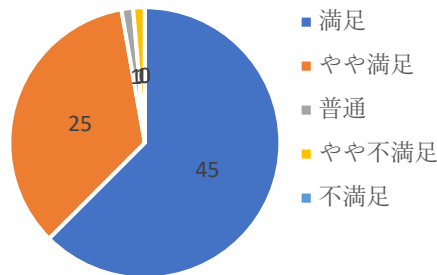
※複数回答可 (回答数：72件)

当事者とのコミュニケーションスキル	63
他機関や大使館など関係機関との連携、ネットワーキング	47
利用可能な社会資源や制度に関する知識	66
当事者の文化的・宗教的背景や生活状況を理解する力	60

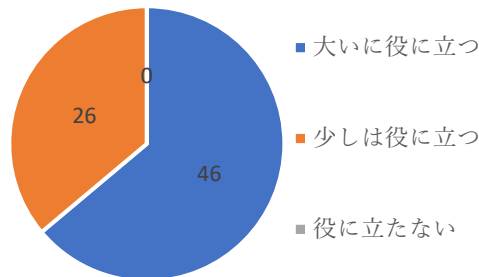
その他の回答 (4件)

- ・ 絶えず社会の最新情報を把握すること
- ・ 傾聴など、コミュニケーションに限らない対人援助のスキル
- ・ 行政を説得する交渉力
- ・ 外国につながる家庭や子どもの支援について職場全体での理解

6. 本日のセミナーはいかがでしたか？



7. 今回の講義はあなたの業務・研究・活動に役立つと思いますか？ (回答数：72件)



8. 今後取り上げてほしいテーマや、セミナーへのコメントがあればお聞かせください。

今後取り上げてほしいテーマ (抜粋)

- ・ ソーシャルワーカー、弁護士、行政書士、コミュニティの方々、心理士などの協働について。事例を一緒に検討できる機会などが持てるといい。
- ・ 地域、社会での良い事例や成功例の紹介。
- ・ 在留資格について (仮放免や難民申請中など)
- ・ 定住外国人の高齢化で現れてくる問題や必要とされる支援
- ・ 母国コミュニティの影響が強い事例の検討から、当該世帯への理解を深められる内容
- ・ 外国の子育てに関する考え方 (国や宗教的、文化的文脈に起因するもの) と日本との違い

コメント (抜粋)

- ・ レクチャー+事例で非常にわかりやすかった
- ・ 交流やリフレクションのためにグループアウトセッションがあると良い。いろいろな立場の人が来ているので、横の関わりができないのはもったいないと感じた
- ・ アセスメントを行うことが重要ということ、再確認できた。国籍関係なく、アセスメントの重要性は理解していたつもりだったが、より細かくアセスメントを行い、適切な支援、機関や地域へつなげていく必要性を感じた。
- ・ 両親が外国籍の場合は、学校からの公文などを理解することも難しく、本日のセミナーでもあった通り、日本語が話せるから日本語の読み書きができるということではないかと思った。

●第2回（回答数：61件）

テーマ：外国にルーツのある子どもの在留資格や国籍に関する相談支援
～施設に入所している無国籍児童の国籍取得手続きと関係者間の連携～

1. 外国にルーツのある子どもの無国籍や国籍取得に関する相談支援に関わったことはありますか。
（回答数：61件）

はい	30
いいえ	31

2. （はいの場合）どんなことが難しいですか？※複数回答可（回答数：61件）

相談先（弁護士など）を見つけること	13
国籍、在留資格、戸籍などに関する知識	25
大使館など外国の関係機関とのやりとり	18
保護者や当事者とのやりとり	12
対象となる本国の法や制度に関する知識	23
国籍取得等にかかる費用負担	9

3. 国籍取得の手続き（帰化を除く）に費用がかかることを知っていましたか。（回答数：61件）

はい	34
いいえ	27

4. 誰が費用負担するのが望ましいと思いますか。（回答数：61件）

公費（国・自治体）	40
保護者	20
本人	18
支援者	6
その他	11

その他の回答内容（抜粋）

- ・ 受益者負担が原則だと思うが、国籍取得の理由や経済力にもよるので、一概に誰が負担すべきと言い切れない。
- ・ 本人が未成年の場合や、本人に非がなく、経済的に困窮している場合は、公費での負担が望ましいと思います。
- ・ ケースの状況によって保護者が負担可能な場合は負担し、厳しい状況の場合は公費でお願いしたい。
- ・ 無国籍の状況に至る事情を考慮して配分できる支援があることが理想的と思いました。

5. 子どもの国籍取得支援において、どのような支援があるとよいと考えますか。

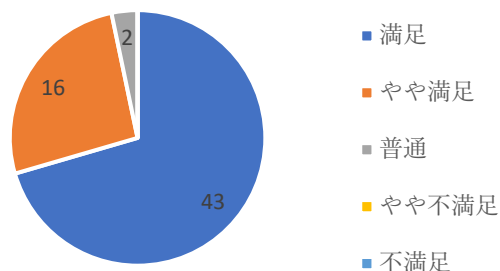
※複数回答可（61件の回答）

当事者や保護者との連絡調整や情報収集	36
大使館など外国の関係機関との橋渡し・仲介	47
各国法のデータベース	25
国籍問題に詳しい弁護士など専門家の助言	47
国籍取得の方法などの情報（研修やホームページなど）	42
国籍取得支援に関する相談窓口	47
その他	3

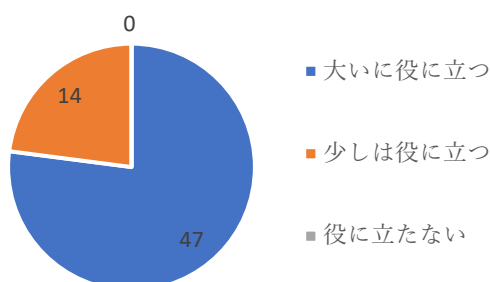
その他の回答内容（抜粋）

- ・ 子どもや保護者の気持ちや意向を心理士など専門家がしっかり聞き、寄り添える支援体制

6. 本日のセミナーは、いかがでしたか？（61件の回答）



7. 今回の講義はあなたの業務・研究・活動に役立つと思いますか？（61件の回答）



8. 今後取り上げてほしいテーマや、セミナーへのコメントがあればお聞かせください。

今後取り上げてほしいテーマ（抜粋）

- ・ 難民申請について
- ・ ISSJ が関わる具体的な事例の紹介
- ・ 入管問題にさらされている家族の支援について
- ・ 乳幼児の時に無国籍状態の子どもが日本国籍の夫婦の下に里親委託、また特別養子縁組を組もうとした場合、どのような課題が出るか、また必要となる手続き

コメント（抜粋）

- ・ 普段聞きなれない用語が多い中、分かりやすくご説明いただきありがとうございました。ただ、やはり普段聞きなれない用語が多いので、要所要所で内容が分からない部分がありました。今回の内容のさらに初心者編のような形で、用語の説明や手続きの説明をしていただければ幸いです。
- ・ 必要な支援情報や制度のアップデートが欠かせないため、同じ内容でもまた開催してほしいと思います。児童相談所と連携して支援するケースがありますし、他機関からの相談にも情報提供できたらと思います。

●第3回（回答数：51件）

テーマ：外国にルーツのある子どもの発達に関する相談支援
～多文化・多言語環境の子どもの発達について～

1. 外国にルーツのある子どもの無国籍や国籍取得に関する相談支援に関わったことはありますか。
（回答数：51件）

はい	46
いいえ	5

2. (はいの場合) お子さんの年齢層を教えてください。※複数回答可 (回答数 : 46 件)

0 歳～2 歳	11
3 歳～6 歳 (小学校入学前)	24
小学校 1 年生～3 年生	26
小学校 4 年生～6 年生	20
中学生	30
高校生	11
その他	1

3. (はいの場合) どのようなことが気になりましたか? ※複数回答可 (回答数 : 46 件)

他の子どもと比べて発達が気になる	17
言葉がおそい	19
落ち着きがない	25
学校の勉強についていけない	26
学校に行きたがらない	9
保護者のかかわり方・しつけの仕方が気になる	29
その他	5

その他の回答内容 (5 件)

- ・ 就職を希望しているが困難が予想される
- ・ 支援級について保護者が納得していなかった
- ・ 友人関係がうまくいかない
- ・ 発音やイントネーションに違和感がある (長く日本で生活していて)
- ・ 軽いダウン症という診断をすでに受けている

4. 支援につなげる場合もしくは支援する場合、どのような難しさがありますか?

※複数回答可 (回答数 : 51 件)

子どもの言語環境のせいなのか、発達の課題なのかがわからない	30
外国ルーツの子どもの発達に関する専門家がない	30
保護者とのコミュニケーション	36
保護者のしつけの方法など子育て文化の違い	34
地域の療育に関する社会資源になかなか繋がらない	14
在留資格の状態により必要なサービスを利用できない	4
相談先がわからない	7
その他	5

5. 子どもの発達の支援において、どのような支援があるとよいと考えますか?

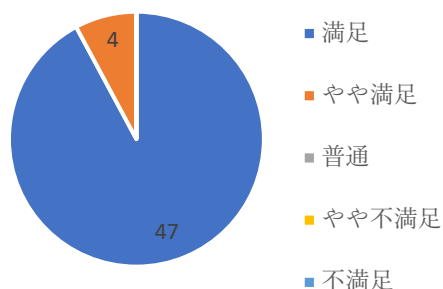
※複数回答可 (回答数 : 51 件)

相談窓口	19
専門家 (医療、心理、言語) の助言	39
学校でのサポート	34
子どもや保護者の居場所づくり	31
文化的背景の理解に繋がる支援	34
保護者の生活基盤の安定に繋がる支援	27
その他	4

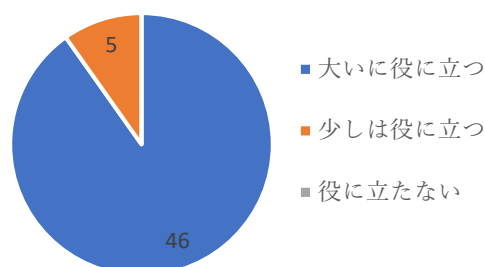
その他の回答内容 (抜粋)

- ・ 発達課題と二次障害を起こさせない支援
- ・ 日本の行政や学校に向けて研修を行う
- ・ 未就学でも支援や療育につなげられるような相談窓口が必要だと思います。

6. 本日のセミナーは、いかがでしたか？（51件の回答）



7. 今回の講義はあなたの業務・研究・活動に役立つと思いますか？（51件の回答）



8. 今後取り上げてほしいテーマや、セミナーへのコメントがあればお聞かせください。

今後取り上げてほしいテーマ（抜粋）

- ・ 外国籍の子どもで言語理解に遅れがある子へのアセスメント等
- ・ 発達に課題がある子を育てている保護者への直接的な支援方法
- ・ 保護者向けのセミナー。ただ、どれだけ需要があるか、どうやって保護者につなげるか課題
- ・ 会話にほぼできており、一般教師からは支援の必要を感じにくい児童生徒の支援のポイント、注意点など
- ・ 日本語が全く分からない状態で来日した子どもの様々な進路について

コメント（抜粋）

- ・ 言葉の獲得についての理解、言葉が発達か、というものについての理解が大変深まり、これまできちんと理解できていなかった部分が整理された。とても良い学びの場となった。
- ・ 児童養護施設に、日本国籍ではない保護者もあり、どこまで母語で母文化の教育がされてきたかが、学校などの適応に影響することを学び、ことばと文化という視点でもその子の成長を考えていきたいと思いました。
- ・ 日本語が母語ではない保護者に説明等する際、できるだけ短い言葉で、それを文字にし、図等を加えながら伝えています。笑顔は相手に安心感を与え、子どもへの関心や喜びを共有することは信頼関係の構築にも貢献すると実感し、実践しています。私の大切だと思っていることを先生のまとめとして聞くことができ、確信を持って実行し続けることができると感じました。
- ・ （支援者に）悩みがあるときに相談できるところが近くにあるといいと思っています。

●第3回（回答数：27件）

テーマ：フィリピン人児童の出生登録手続きについて

～出生登録や国籍取得支援におけるフィリピン大使館との連携～

1. フィリピンにルーツのある子どもや家族の支援や相談に関わったことはありますか。

（回答数：27件）

はい	21
いいえ	6

2. （はいの場合）どういった相談内容でしたか。※複数回答可（回答数：21件）

出生届やパスポート申請、国籍	10
在留資格	11
妊娠・出産	8
養育・教育	11
経済的困窮	9
家族関係の葛藤	15
その他	3

3. 支援につなげる場合もしくは支援する場合、どのような難しさがありますか？

※複数回答可（回答数：27件）

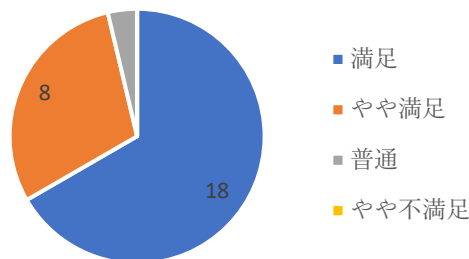
その国のルーツをもつ子どもの支援に関する相談先が分からない	9
保護者とのコミュニケーション	14
大使館やその国の状況の分かる社会資源になかなか繋がらない	10
制度等に関する情報が不足している	20
その他	3

4. 出生届や国籍取得の支援において、どのような支援があるとよいと考えますか？

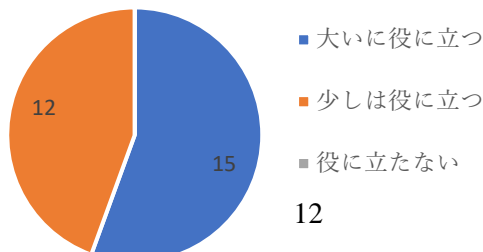
※複数回答可（回答数：58件）

相談窓口	20
専門家（弁護士）の助言	11
大使館との連絡調整のサポート	15
子どもや保護者との橋渡し	11
その他	1

5. 本日のセミナーは、いかがでしたか？（27件の回答）



6. 今回の講義はあなたの業務・研究・活動に役立つと思いますか？



7. 今後取り上げてほしいテーマや、セミナーへのコメントがあればお聞かせください。

今後取り上げてほしいテーマ（抜粋）

- ・ 事例検討会や他施設・機関との情報共有
- ・ 地方での支援活動について何か助けになるような内容
- ・ 各国の在日外国公館との連携について
- ・ 日本人配偶者の離婚をめぐる様々な問題、課題、対策、支援、連携などについて

コメント（抜粋）

- ・ 国によって制度や法律が異なるため、そこをきちんと理解した上で支援に活かしていきたいと思いました。
- ・ 今回のように他国の方のセミナーもあればと思います。
- ・ 事例を伺うと、非常に身近に感じられました。広い協働を知ることができるテーマの研修をまた聞く機会があれば幸いです。
- ・ 出生届や国籍取得についての相談を実際に受けたことはないのですが、今後そのようなケースにあたる心の準備ができたと思います。